

昇降路防火区画参考図集

H14.5.27

国土交通省住宅局建築指導課
日本建築行政会議

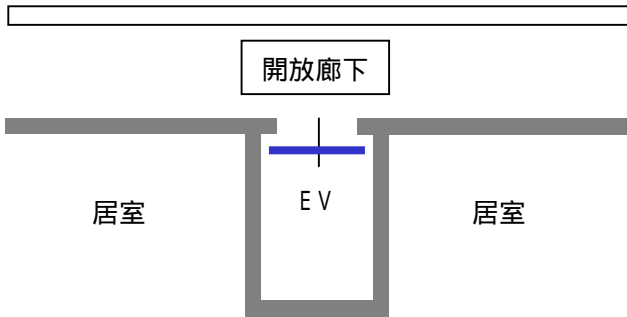
建築基準法施行令第112条第9項の竪穴区画は、開放廊下等に面する場合は適用除外とされています。以下は、開放廊下等に面する場合の参考例を示したものです。

令第112条第9項 竪穴区画

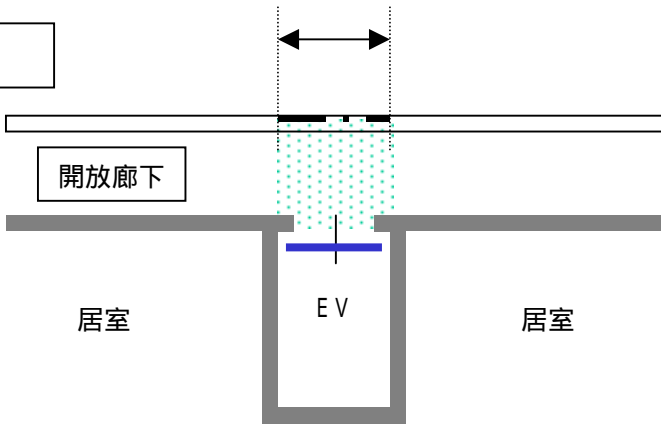
かっこ書きに、(直接外気に開放されている廊下、バルコニーその他これらに類する部分を除く。)とあり、開放廊下に面する昇降路は竪穴区画の対象とはならない。ただし、昇降機の乗場戸(開口部)が、延焼のおそれのある部分や令第123条第2項の屋外避難階段の構造で2mの開口部規制範囲にある場合等には、昇降機の乗場戸等を法第2条第九号二口に規定する防火設備(両面20分の遮炎性能を有する防火設備)とする必要がある。

なお、直接外気に開放されている廊下、バルコニーその他これらに類する部分は、排煙上有効に直接外気に開放されている部分とし、少なくとも廊下の幅以上の開放面を有する部分とする。

ケース1



ケース2

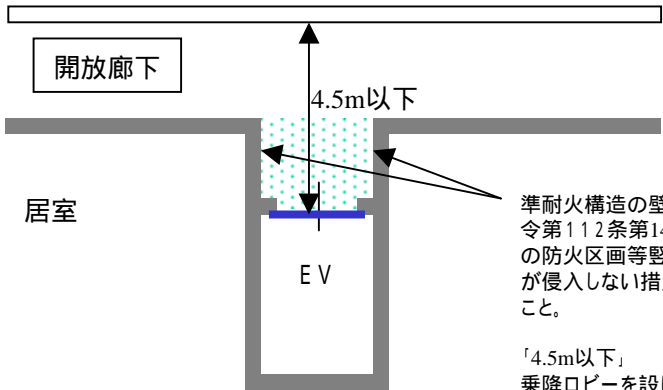


防風スクリーン

防風スクリーンの長さは昇降路の幅程度のものとする。

なお、防風スクリーンは、スクリーン上部に有効に煙を排出することができるすき間を設けることが望ましい。(以下同じ。)

ケース3

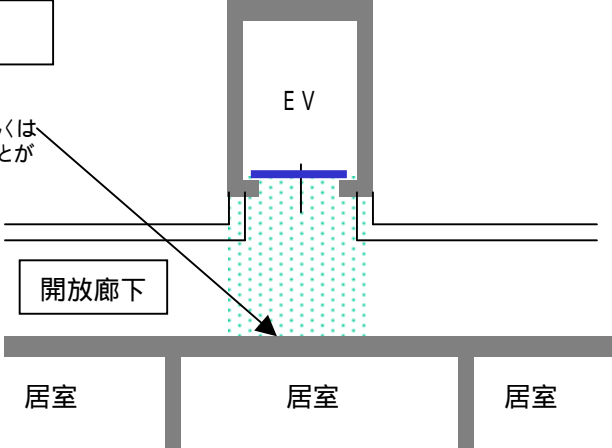


準耐火構造の壁若しくは令第112条第14項第2号の防火区画等竪穴に煙が侵入しない措置をとること。

「4.5m以下」乗降ロビーを設ける場合の寸法を採用。

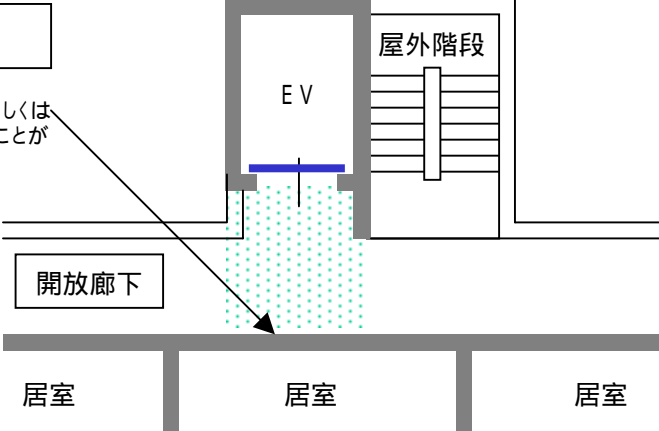
ケース4

準耐火構造の壁若しくは防火設備を設けることが望ましい。

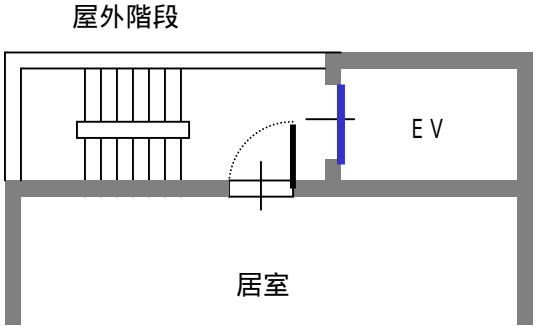


ケース5

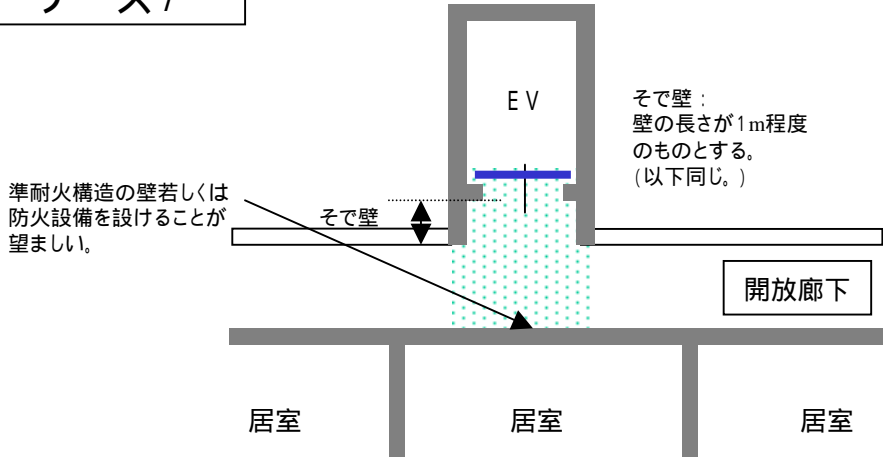
準耐火構造の壁若しくは防火設備を設けることが望ましい。



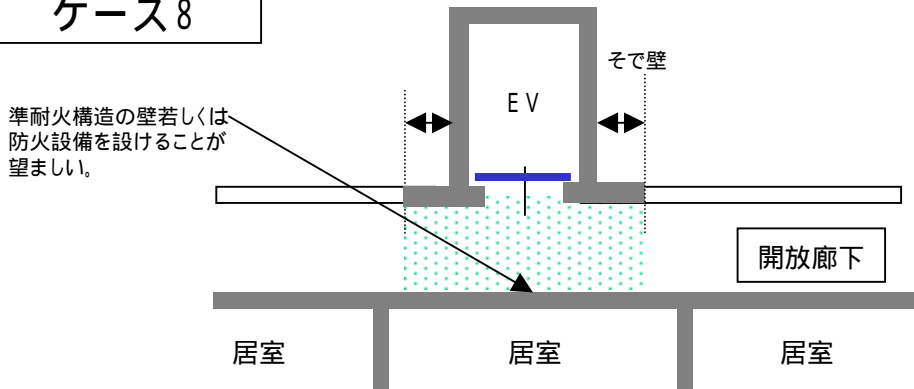
ケース6



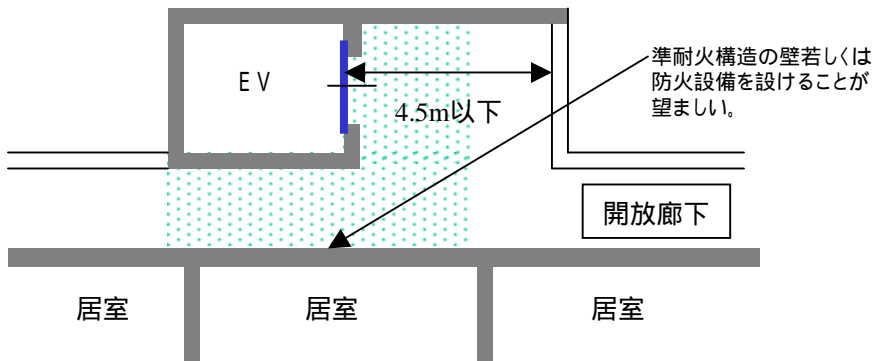
ケース7



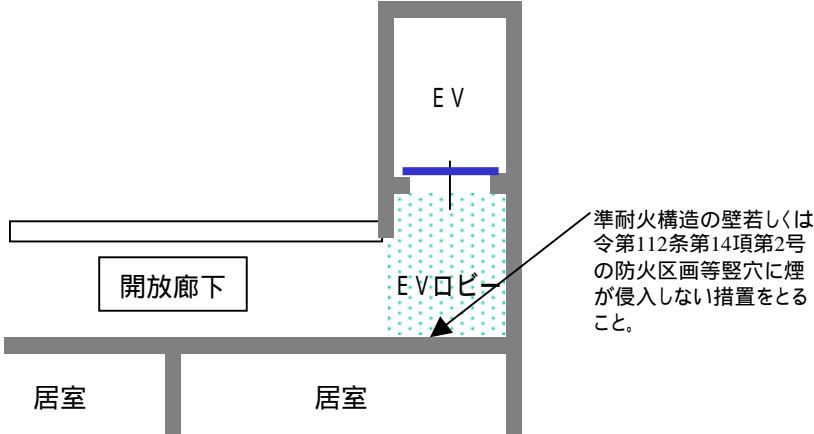
ケース8



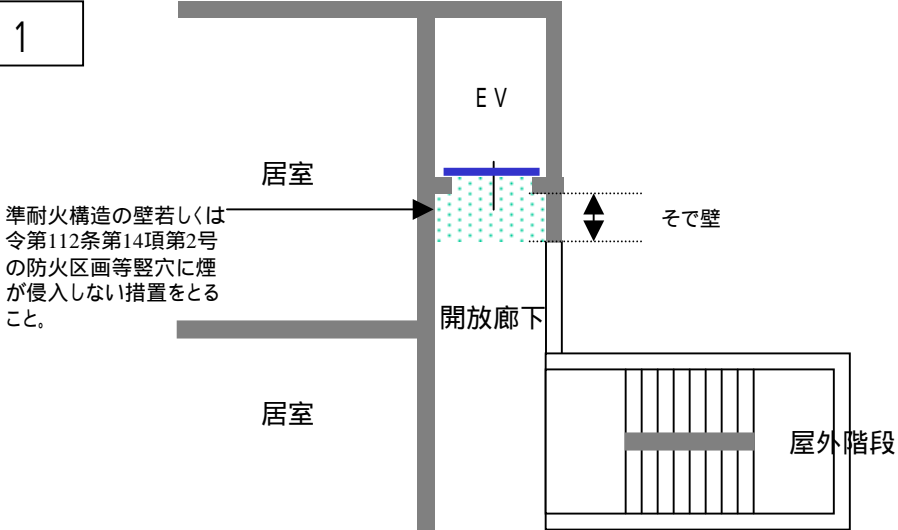
ケース9



ケース10



ケース11



ケース12

